

# 非辛みシシトウの夜間温度管理の違いが収量・品質に及ぼす影響



表1 ハウス内平均温度の推移(9月~6月)

	平均温度					
	夜間		日中		24時間	
	慣行	低夜温	慣行	低夜温	慣行	低夜温
9月-11月	22.6	21.7	26.4	26.2	24.5	23.9
12月-2月	21.2	18.3	24.7	24.1	23.0	21.2
3月-6月	21.7	20.0	26.6	26.5	24.1	23.1

表2 A品率、AM率(9月~6月)

	15号		16号		スリム	
	慣行	低夜温	慣行	低夜温	慣行	低夜温
A品率(%)	88.3	86.9	86.9	84.2	87.8	82.0
AM率(%)	72.4	74.3	74.4	76.4	81.9	84.0

注) A品率=A品/(A品+マルA品)×100  
AM率=AM/(AM+AL)×100

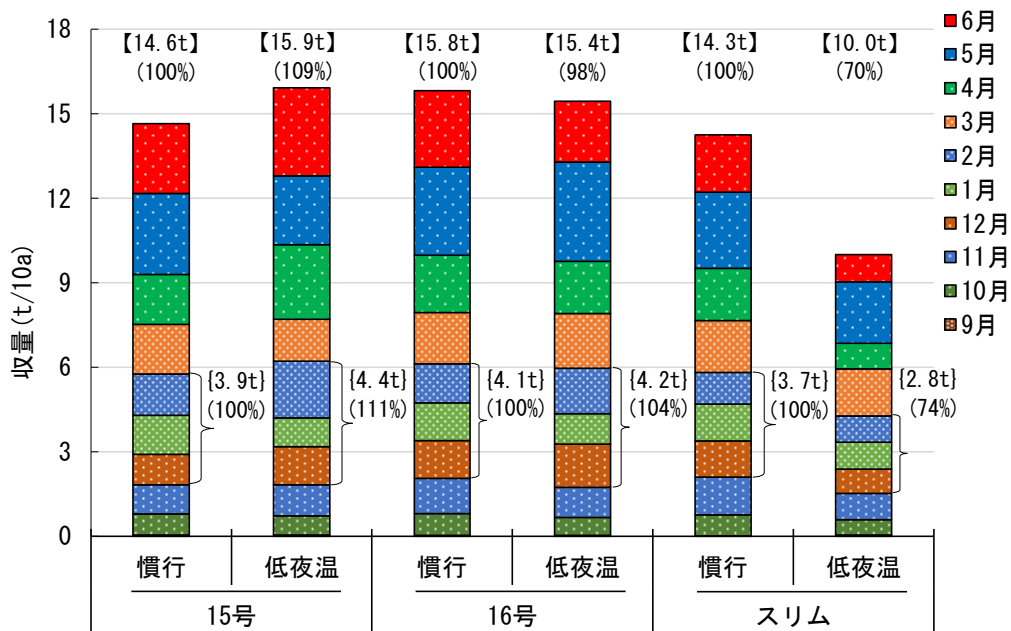


図 月別収量(収穫期間2022年9月16日~2023年6月30日)  
注)【】は6月末までの合計、( )は慣行に対する比率、{ }は12月~2月の合計

高知県の主要園芸品目であるシシトウにおいて、辛み果の発生しない品種(高育交シシ15号、高育交シシ16号、以下15号、16号)を育成しました。高温作物であるシシトウは近年の燃料費高騰の影響が大きく、加温経費の削減が望まれていました。そこで今回、この2品種および従来品種(土佐じスリム、以下スリム)について夜間の温度管理を違った場合の収量・品質を調査しました。

12~2月の夜温設定を18℃とした低夜温区での夜間平均温度は慣行区の21.2℃に対し18.3℃と2.9℃低く推移しました(表1)。

低夜温区では慣行区に比べて全期間の収量はスリムが70%となったのに対し、15号、

16号は同等~やや多くなりました(図)。また品質面に大きな違いはみられませんでした(表2)。

以上の結果から、15号、16号は夜間平均温度を慣行より低い18℃で管理しても同等の収量、品質が維持でき、加温経費の削減が期待されます。

本研究は、内閣府地方大学・地域産業創生交付金「IoP(Internet of Plants)」が導く「Next次世代型施設園芸農業」への進化の助成を受けたものです。

(先端生産システム担当 橋本 明広

088-863-4918)